

交通死亡事故ゼロ 無火災 一〇〇〇日記念入賞作文

自分の交通マナーを考えてみて

月潟中学校三年 半田 美栄子

「また事故か」と父の一言。本当に新潟県は事故が多い。父は、ニュースで二十代ぐらいの人が死亡したという「まだこれからののに」と母とよく話をしている。

私はちょっとした用事のおかげで、いつも自転車。一か月に一回は点検しているし、左右の確認もするし、「よしいいな」と思う。けどその反面、事故につながる行為もしているのだ。

手信号や一時停止がいかげんで、時には「だれも見ていないや」と二人乗りをしたり、信号むしをしたりしたことがあった。

ニュースや新聞にのる事故は、いかげんな行為が原因になって死んだ人も多い。たかが自転車でも反省すべき点が多いなあと思う。

家の人からも「おまえも気がつく時は、気を引き締めなくてはなりません。体の中の悪魔が「眠いか? 眠かったら眠るがよい」と囁きかけてくる。もう一方では「眠ったらいけない。かわいの子供達や家族が待っているではないか。がんばるのだ」と。戦いです。無理せず、気を休めて悪魔には負けてはいられないのです。安全運転、安全運転と自分にいいかけつつ、家に着くころはホッとします。

今日も無事だったと。今の世の中、車という物体は生活する上で、なくてはならないものになってしましました。ちょっとした用足しにしろ、買物にしろ、車・車・車、リッチな生活になったものです。車の存在は大きなものです。生活の必需品となつて、我々人間社会に便利さを与え、その反面、恐ろしさをも与えています。

地域婦人リーダーと交流

下曲通 和平 日出子

第33回農山漁家生活改善実績発表大会が、埼玉県比企郡嵐山町にある国立婦人教育会館を会場として、三月七日から九日まで三日間開催されました。

私は、そのうちの第三日目の全体会に、中東蒲原農業改良普及所白根支所管内の各市町村から集った農村婦人地域リーダー21名と共に、三年間の学習の最終年次集合学習と

「お母さん、行ってらっしゃい、気をつけてね」五才になる娘は、そう言って毎日、私を見送ってくれます。私はその言葉に見送られて十五、六kmもの道程を三十分以上もの時間をかけ、燕市の郊外にある職場へと車を走らせるのです。

火への心配りを

月潟中学校三年 永野 澄子

この前、近くで火事があったらしく、何台もの消防車があわただしく走りまわっていた。あのサイレンの音というのは、いつ聞いてもへんに胸さわぎのする音である。

小学生の頃に、近所で火事があり、大変怖い思いをした事があるからだと思う。

その時は、家の玄関に立つと、火が舞い上がり、風であおられていた。家が燃えていく音、人が大きな声で叫んでいた事が今でも忘れられない、玄関先からは、足がすくんで出られなかった。

父が、「このまま火が消えないと、うちにも燃えうつるかもしれない」と言った時の心境といったら、時間がたつにつれ、ただ不安がつるばかりだった。

交通安全について

西萱場 関本 三津子

「お母さん、行ってらっしゃい、気をつけてね」五才になる娘は、そう言って毎日、私を見送ってくれます。私はその言葉に見送られて十五、六kmもの道程を三十分以上もの時間をかけ、燕市の郊外にある職場へと車を走らせるのです。

毎日毎日が緊張の連続です。一瞬でも気を緩めようものなら、すかさず、小悪魔が忍び寄ってきます。仕事の関係上夜遅くなることも暫しあります。疲れたの車の運転は苛酷なものです。時として眠気を起こしたり、体中だるく感じたり、ハッとすることも……

楽しかった料理教室

大別当 白倉 ハナ

三月五日調理実習への誘いを受け、参加いたしました。私は今回二度目、あまり年令の違わない皆様と一緒に実習を受けられるのが嬉しくてたまりません。

先生のお話しを聞き実習に入りました。年ですね、先生

毎日ニュース、新聞には事故についての話題がある。その話題を少しでもなくすように努力しなければならぬ。一人ひとりが注意すればいい

いといえはそれまでだけど、もう一度自分の交通マナーを考えてみる必要があるのではないだろうか。

ゆる、ヤジウマという連中も私には何を考えているのかわからない。仮に、自分の家が火事になったとして、見物され、話題にされたものでは、どんな思いをするか、考えてみてほしいのです。

火事という物は、ちょっとした注意で防げる。その反面ちょっとした不注意で火災につながる。やはり、これを防ぐには常日頃、火災につながるようなことに気を付けようという意識を持って行動すれば万全ではないでしょうか。



「参加して来ると美味しい物が食べられるね」と、大好評でした。こんなご馳走を作ってやれば、おばあさんの腕も見直されるでしょう。いつもこんなにフランスの取れた食事が取れるかな、いや出来ない、自問自答しながら、とにかく家の中の買いおきの物、買い出しにも献立表に近い物をと、考えるようになりました。

そんな時は、気を引き締めなくてはなりません。体の中の悪魔が「眠いか? 眠かったら眠るがよい」と囁きかけてくる。もう一方では「眠ったらいけない。かわいの子供達や家族が待っているではないか。がんばるのだ」と。戦いです。無理せず、気を休めて悪魔には負けてはいられないのです。安全運転、安全運転と自分にいいかけつつ、家に着くころはホッとします。

振興への参加について五つの分科会でのまとめを代表者より発表、発言がありました。グループのみでなく、市町村、普及所管内全域へと活動の輪が拡がり、日頃の学習の成果の発表、生活技術の交換とそれはもうすばらしい発表ばかりでした。

①くらしのあり方を見直す②農山漁家のよさを生かしたくらしの工夫③グループ活動の充実と地域

生活改善を目的とし、活動を推進している全国の多くの婦人の出合の場として利用され、今後の活動の進め方について、次への発展を期待されているものです。